

卒業の春

上田 秀子 (物理学教室)

この春は、大学を去る側になりました。今まで送る側にいて羨む思いもありましたので、自分の番になってよい気分ですと言いたいところですが実際は分刻みの多忙の毎日なので余りよい気分ではなくなりました。もう少しの辛抱だと自分に言い聞かせて最後の追い込みをしておりましたところ一週間後までに何かを書くように言われました。

初めてこの仕事について時(紛争1年前)物理学教室主任が久保亮五先生で、大学院の専攻主任が西島和彦先生でいらっしゃいました。主任秘書も兼ねますので連絡事項も様々なことがあったと思います。お偉い先生方にどのようにお話ししたらよいかと一応は考え、ものの言い方に注意を払ってと思いながらも本当のことだから仕様がなかついはっきりと(失言に近い言い方)言ってしまう私に、両先生はにこにここと別に相手にしないという風でもなくやんわりと的確なお返事をくださいました。今考えても冷汗が出るような場面が数々ありますが、あのご様子が忘れられません。そ

の当時久保研の助手でいらっしゃったお方が現教室主任の鈴木増雄先生で、ひとめぐりしたなと思います。数えましたら教室主任として9人、専攻主任として17人の先生方でした。特に専攻主任は私の願いも叶わず一時期を除いて毎年替わられました。

学生さんについてですが、なにしろ学生数が多いですから同じような注意を繰返えし言わなくてはならない悩みがあります。まして博士課程の学生さんにはそれなりの対応をと思うのですがつい『世話がやけますね』ぐらいは言ったりしました。その方達が教育者、研究者になって再会した折に在学当時私から注意を受けたことを懐かしそうに話されたときのバツの悪さ、そして笑顔で親しく挨拶されると人間の大きさは彼達の方が上であったことを思い知らされるのでした。

指導を受ける側の学生さんはいっしょに学問以外のことも受け継いでいて、紳士の態度や話し方から事務的なことの無関心さまでそれはいろいろで

すが師の影響は大きいことがわかります。影響力
と言えば私も科学者集団それもトップクラスとそ
れに続く人々の中で仕事をさせていただいたので
すから私なりに刺激と影響を受けました。せめて
恥ずかしくない程度に自分も成長しなければと思
っていたのですが、どうも素材の悪さゆえ志しだ

けに終わりました。

以上反省の弁で感謝の言葉に代えさせていただきます。

皆様いろいろお世話になりました。心から御礼
申し上げます。